

眼科医の健康メモ ⑧

「先生診てくださいー」と隣のブースで診療していた先生が驚いた顔で声をかけてきました。カラーコンタクトレンズ（カラコン）の着色が落ちて角膜が黄色に染まっている…。自分も絶句してしまいました。後日、このことを大病院の後輩医師と話したら、「カラコンの模様が角膜に転写されている人もいましたよ！」。また絶句。

最近のコンタクトレンズは性能が向上し、使用方法の指導も行き届いて

カラコンタクト

いるためか、重篤なトラブルを経験することは少なくなっていたのですが、ここ数年は今までと違ったトラブルが増えてきました。

一部のディスカウントショップや通信販売で取り扱っている、品質の悪いカラコンがその原因です。最近では信用を売りとしているはずの一部のデパートまでもが、カラコンを検査しないで、免責の署名だけで販売しているのですから困ったものです。これらを、眼科医の検査を受けずに購入

するケースが増えているようです。

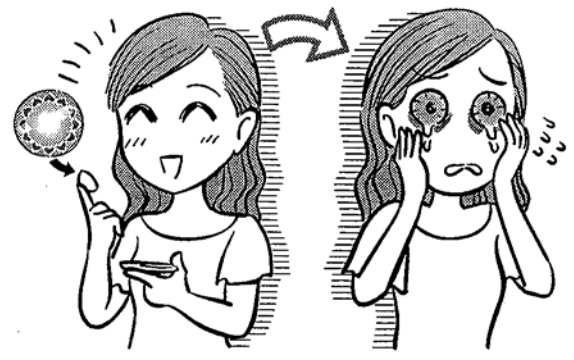
低品質のものでトラブル増

国民生活センターは5月、カラコンの粗悪品が出回っているとして、注意を呼びかけました。2012年に日本コンタクトレンズ学会が行ったカラコンによる「眼障害調査」では、3カ月間に395症例が報告されました。中でも重篤と考えられる眼障害（角膜潰瘍、角膜浸潤）の割合は、日本眼科医会が行ったコンタクトレンズ全体の眼障害の調査結果よりも高くなっています。

この原因として、カラコンタクトレンズは透とに加え、着色部位が角膜や結膜を擦る可能性があるのでレンズ自体の安全性の問題や、正しいケアが行われていないなどの使用方法の問題などが挙げられていました。

また、参考として日本で認可されていない個人輸入の銘柄を検査

明なコンタクトレンズに比べ酸素透過性が低いこと、カーブや直径が表示値から大きく外



れているものがあつたり、表示が全くないものもあつたとのこと。国民生活センターの報告書を参照。http://www.kokusen.go.jp/news/data/n-20140522_1.html

カラコンは約10年前から市場に出回りましたが、当時は大手メーカーの製品しかなかったためか、しっかりとした製品をきちんと使用していた時代には、このようなトラブルはありませんでした。品質の悪いものも数多く出回っている現在、自分の目は自分で守るしかないようです。ファッション性の高いカラコンであっても目に直接入れるものですので、ぜひ眼科医の指導の元で使用しましょう。

長・秦 誠一郎
〈第4月曜に掲載〉